

キトラ古墳壁画の保存管理施設に関するこれまでの検討について

1. 基本的な考え方

- 壁画は、現地の石室内で保存されることが基本であるが、現在の保存技術では間違いなく生物被害が生じてしまうため、キトラ古墳の壁画については、恒久的な保存を図る観点から、環境を制御しながら安全に保存管理することができるよう、当面の間、石室外の適切な施設で保存管理・公開する。
- 保存管理・公開施設に求められる設備・条件等については、「文化財公開施設の計画に関する指針」の考え方や意図、内容等を十分反映した上で、キトラ古墳壁画の諸事情に対応していく。
- 壁画の保存管理・公開施設の場所については、明日香村内とすることとし、奈良文化財研究所飛鳥資料館等の既存施設や国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区内の施設等を視野に入れ、管理運営体制等のソフト面も含めて検討する。

【古墳壁画保存活用検討会（第8回）(H22. 3. 24) 配付資料3で確認】

2. 古墳壁画保存活用検討会におけるこれまでの意見（要旨）

- 文化財の活用のあり方の一つとして、キトラ古墳という文化財を体験しながら飛鳥の文化や飛鳥そのものを知ってもらうというダイナミックな発想が必要。
- 飛鳥にある文化財は、相互の特性も活かしながら全体を密接に関連付け、全村まるごと博物館構想の下、飛鳥の歴史展示を有機的に進めていくという発想が必要。
- 文化財を正確に理解してもらうためにも、単に壁画を見るだけでなく、説明等に配慮した施設にすることが必要。
- 壁画は古墳の魂。高松塚古墳壁画と同様、キトラ古墳の壁画も国営飛鳥歴史公園の地区内で考え、さらには体験学習をテーマにしている中で展示していくほうがよい。
- キトラ古墳周辺地区はキトラ古墳を取り囲む形で設置されており、この地区でキトラ古墳の環境保全機能とあわせて歴史文化の体験学習機能も担うことは可能。ここで壁画を保存・公開することは、この歴史文化の体験学習機能を発揮していく上で非常に有意義。
- キトラ古墳壁画は、取り外し及び保存処理が施されている点で、高松塚古墳壁画に比べて移動も可能であり、飛鳥資料館等の既存施設で保存・展示することも考えられるのではないかと。
- 飛鳥資料館の展示スペースは既に飽和状態であり、現実的に対応できるかという視点もある。
- 保存を優先に考え、その延長線上で公開活用を図るべき。

【古墳壁画保存活用検討会（第7回）(H21. 12. 25)】